

# 7203 トヨタ自動車

TOYOTA MOTOR CORPORATION

http://www.toyota.co.jp/

今期予想税前利益は10.6%増益の見込み。

## 市場テーマ

ハイブリッド自動車／米国／為替感応度／電気自動車（EV）

**株価** **7050円**  
 (9月8日東証終値)  
 [前週比] +0.7% / +50円

**最低購入額** **70万5000円**  
 (売買単位100株)

**理論株価** **1万1346円**  
 (上昇余地 +60.9%)

**PER** 9.4倍 **PBR** 1.32倍

**高値** **8783円**  
 (2015年3月24日)  
**安値** **5710円**  
 (2014年10月17日)

**時価総額** **24兆4289億円**

1年前比 +10.6%  
 3年前比 +133.1%  
**【全3595銘柄中】** 1位  
**【東経業種152銘柄中】** 1位

### 東洋経済業種分類

大分類 ▶ 自動車・住宅  
 中分類 ▶ 自動車  
 小分類 ▶ 自動車  
 キーワード ▶ 自動車

【取引所業種分類】 輸送用機器

**株主優待** なし

### 主要市場 東証

**【大型】**  
 東証1部(貸借)  
 名証1部(貸借)  
 札証(貸借)、福証(貸借)

**リスク情報**  
 ☹️☹️☹️♦♦

### 株価指標 (業種平均)

今期PER (16.3) 9.4倍 (13.3倍)  
 来期PER (17.3) 8.8倍 (10.7倍)  
 PBR 1.32倍 (0.84倍)  
 配当利回り 2.84% (2.24%)  
 PEG (経常2期予想) 1.0倍 (5.2倍)

### 信用取組

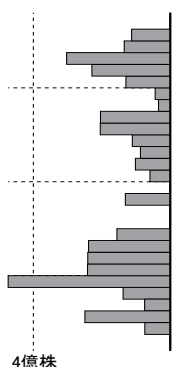
信用取組	売り残	買い残	取組倍率
8月14日	403	9,048	22.44倍
8月21日	505	9,318	18.43倍
8月28日	751	9,163	12.19倍
9月4日	705	9,269	13.13倍

(2市場合計、単位：1000株・倍)

### 株価感応度 (β値60カ月) (業種平均)

TOPIX 普通 1.18 (0.97)  
 NYダウ やや低い 0.66 (0.67)  
 円高ドル安 逆行 ▲1.66 (▲1.11)  
 原油価格 低い 0.03 (0.09)  
 長期金利 低い 0.17 (0.10)

株価帯出来高 トヨタ



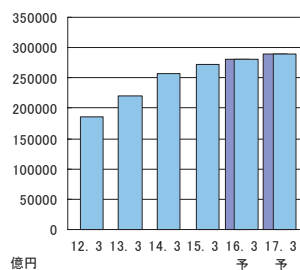
【上場日】1949年5月

## 四季報 業績評価

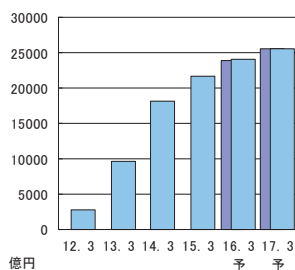
四季報強気度・弱気度 ☺️☺️☺️☺️ +7.4%  
 今期税前増益率 (16.3) ☺️☺️☺️☺️ +10.6% +10.6 (+11.2)  
 来期税前増益率 (17.3) ☺️☺️☺️☺️ +7.8% +7.5 (+6.6)  
 四季報増減額 (対夏号) ☺️☺️☺️☺️ +0.6%

▶「強気度・弱気度」は会社予想比較。「夏号」は2015年6月12日発売。

### 売上高推移



### 当期利益推移



注) ■は実績および最新東洋経済予想、■は四季報前回(夏号)予想。

【特色】自動車メーカーで世界トップ級。年間総販売1000万台に業界で初めて達成。利益額は日本企業で断トツ、財務も強固。「トヨタ」「レクサス」の2ブランド。子会社にダイハツや日野。富士重工に出資、マツダと提携も。国内シェアは登録車で5割弱、軽含むと4割強(グループ)。生産は国内が東海、九州、東北、海外は世界各国。デンソーなどグループ部品メーカーも有力。ハイブリッド車、燃料電池車など技術開発力も高い。金融や住宅も展開。

■『会社四季報』2015年3集夏号記事(2015年6月12日発売)  
**【未到領域】**総販売台数1015万台と微減。国内や東南アジアは低調だが新興国向け戦略車や年末のプリウスで挽回。大型車多い北米好伸。労務費や償却費など増加を得意の原価改善でこなし営業益3兆円圏。【攻め手】19年にメキシコ新工場稼働。17年末までに中国で新ライン建設。環境技術など軸にマツダと提携。3000億円上限に自己株買い。長期保有前提の種類株発行。

■『会社四季報』2015年2集春号記事(2015年3月13日発売)  
**【連続最高益】**連結台数900万台と微減。研究開発費増等を原価改善で円安でこなし最高益。16年3月期は国内逆風だが北米続伸。ASEAN上向く。円安フル寄与。労務費、先行投資費の増加吸収し連続更新。【支援策】燃料電池関連特許を無償提供。日産らと水素ステーションの整備支援。14年度下期に続き15年度上期も取引先への値引き要求見送り。17年にWRCに再参戦。

## ライバル比較

	時価総額	株価	年初末	予想	売上高	営業利益	当期利益	売上高	営業	予想	予想	PBR
	(億円)	(円)	変化率	決算期	(百万円)	(百万円)	(百万円)	成長率	利益率	ROE	PER	
7203 トヨタ自動車	24兆4289億円	7,050	▲6.8%	◎16.3	28,000,000	3,000,000	2,400,000	+2.8%	10.7%	14.3%	9.4倍	1.32倍
7267 ホンダ	6兆5546億円	3,618.5	+2.5%	◇16.3	14,500,000	705,000	535,000	・%	4.9%	8.0%	12.2倍	0.97倍
7201 日産自動車	4兆8507億円	1,073	+1.6%	連16.3	12,100,000	675,000	485,000	+6.4%	5.6%	10.0%	9.3倍	0.93倍
7270 富士重工業	3兆1021億円	3,962.5	▲7.8%	連16.3	3,030,000	503,000	337,000	+5.3%	16.6%	33.0%	9.2倍	3.02倍
7269 スズキ	2兆1227億円	3,783.5	+3.9%	連16.3	3,130,000	200,000	113,000	+3.8%	6.4%	7.6%	18.8倍	1.43倍

(注)ライバル比較は東洋経済業種分類の「キーワード」(比較対象が1社の場合は「小分類」)を基準にしている。また他の「業種」は原則として、同じく「中分類」をさす。 1 / 2

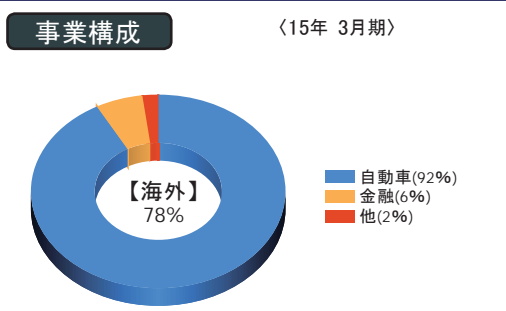
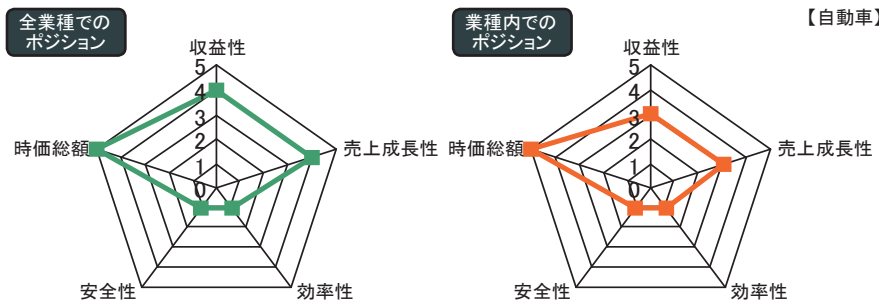
(注) 業績表の「予」は東洋経済予想。\*印は株式分割・併合に伴い、現時点の株価を基準に換算した修正値。

最新業績情報		売上高	前期比	営業利益	前期比	税引利益	前期比	当期利益	前期比	1株益	前期比	1株配当	
		(百万円)	[修正率]	(百万円)	[修正率]	(百万円)	[修正率]	(百万円)	[修正率]	(円)	[修正率]	(円)	
◎12.3	<12.5.9発表>	18,583,653	▲2.2%	355,627	▲24.1%	432,873	▲23.2%	283,559	▲30.5%	90.2	▲30.7%	50	
◎13.3	<13.5.8発表>	22,064,192	+18.7%	1,320,888	+271%	1,403,649	+224%	962,163	+239%	303.8	+237%	90	
◎14.3	<14.5.8発表>	25,691,911	+16.4%	2,292,112	+73.5%	2,441,080	+73.9%	1,823,119	+89.5%	575.3	+89.4%	165	
◎15.3	<15.5.8発表>	27,234,521	+6.0%	2,750,564	+20.0%	2,892,828	+18.5%	2,173,338	+19.2%	688.0	+19.6%	200	
◎16.3予	<15.8.25修正更新>	28,000,000	+2.8%	3,000,000	+9.1%	3,200,000	+10.6%	2,400,000	+10.4%	751.3	+9.2%	200-225	
"	<四季報15年3集>	28,000,000	[0.0%]	2,980,000	[+0.7%]	3,180,000	[+0.6%]	2,380,000	[+0.8%]	756.3	[▲0.7%]	200-225	
"	会社発表	<15.8.4第1四短信>	27,800,000	+2.1%	2,800,000	+1.8%	2,980,000	+3.0%	2,250,000	+3.5%	714.9	+3.9%	..
"	"	<15.5.8期初短信>	27,500,000	[+1.1%]	2,800,000	[0.0%]	2,970,000	[+0.3%]	2,250,000	[0.0%]	715.0	[▲0.0%]	..
◎17.3予	<15.8.25修正更新>	29,000,000	+3.6%	3,250,000	+8.3%	3,450,000	+7.8%	2,550,000	+6.3%	798.3	+6.3%	230-240	
"	<四季報15年3集>	29,000,000	[0.0%]	3,250,000	[0.0%]	3,450,000	[0.0%]	2,550,000	[0.0%]	810.3	[▲1.5%]	230-240	
中14.9	<14.11.5発表>	12,945,597	+3.3%	1,351,946	+7.7%	1,509,174	+12.3%	1,126,836	+12.6%	356.1	+12.8%	75	
中15.9予	<15.8.25修正更新>	13,400,000	+3.5%	1,430,000	+5.8%	1,550,000	+2.7%	1,200,000	+6.5%	375.7	+5.5%	85-90	
"	<四季報15年3集>	13,100,000	[+2.3%]	1,400,000	[+2.1%]	1,520,000	[+2.0%]	1,150,000	[+4.3%]	365.4	[+2.8%]	85-90	
《会社予想なし》													
第Ⅱ四半期	<◎14.7-14.9>	6,554,909	+4.3%	659,218	+11.3%	737,348	+19.0%	539,062	+23.0%	170.6	+23.3%		
第Ⅲ四半期	<◎14.10-14.12>	7,170,017	+8.9%	762,880	+27.0%	846,461	+24.7%	600,027	+14.2%	189.9	+14.5%		
第Ⅳ四半期	<◎15.1-15.3>	7,118,907	+8.4%	635,738	+45.8%	537,193	+28.3%	446,475	+50.3%	142.1	+51.6%		
第Ⅰ四半期	<◎15.4-15.6>	6,987,648	+9.3%	756,001	+9.1%	845,259	+9.5%	646,394	+10.0%	205.4	+10.8%		

▶『会社四季報』2015年2集春号は2015年3月13日発売、同2015年3集夏号は2015年6月12日発売。

経営指標分析	<13.3>	<14.3>	<15.3>	<16.3>	実績5期 予平均	<5期平均> 業種 全社
成長性 売上高成長率	18.7%	16.4	6.0	2.8	7.8	5.9
営業利益成長率	271.4%	73.5	20.0	9.1	111.7	11.1
収益性 ROE	8.5%	13.7	13.9	14.3	8.5	11.3
ROA	2.7%	4.4	4.6	5.0	2.8	4.5
営業利益率	6.0%	8.9	10.1	10.7	5.9	7.7
効率性 総資本回転率	0.67回	0.67	0.61	0.64	0.82	0.35
安全性 自己資本比率	34.2%	34.9	35.2	34.7	39.4	18.7
流動比率	106.8%	107.1	109.2	107.4	180.6	253.8

コメント 成長性と収益性は比較的高い水準で、効率性と安全性は非常に低い水準。



株主構成	(2015年 3月31日時点)	(1年前)
1位 (1位)	日本トラスティ・サービス信託銀行	10.2% (9.6%)
2位 (2位)	自社 (自己株口)	7.9% (8.0%)
3位 (3位)	豊田自動織機	6.5% (6.4%)
4位 (4位)	日本マスターカード信託銀行	4.7% (5.2%)
5位 (5位)	ステート・ストリート・バンク&トラスト	3.7% (3.7%)
6位 (6位)	日本生命保険	3.5% (3.5%)
7位 (7位)	BONYメロンフォーデポジタリーレシートホルダーズ	2.4% (2.4%)
8位 (9位)	デンソー	2.4% (2.0%)
9位 (8位)	資産管理サービス信託銀行	1.9% (2.0%)
10位 (—)	JPMorgan・チェース・バンク	1.9% (—%)

最近の決算発表とコーポレートアクション	(発表日ベース)
2013. 1.30	大証市場撤退
2013. 1.30	大証貸借銘柄を取り消し
2013. 2. 5	2012年12月期第3四半期決算発表
2013. 5. 8	2013年3月期本決算発表
2013. 8. 2	2013年6月期第1四半期決算発表
2013.11. 6	2013年9月期中間決算発表
2014. 2. 4	2013年12月期第3四半期決算発表
2014. 5. 8	2014年3月期本決算発表
2014. 8. 5	2014年6月期第1四半期決算発表
2014.11. 5	2014年9月期中間決算発表
2014.11.26	トヨタテクニカルディベロップメントに会社分割
2015. 2. 4	2014年12月期第3四半期決算発表
2015. 3. 4	会社分割
2015. 5. 8	2015年3月期本決算発表
2015. 6.16	公募増資 4710万株(10598円)
2015. 8. 4	2015年6月期第1四半期決算発表

リスク情報
【総合評価】
値動き ▶ (⊖) (⊖) (⊖) (⊖) (⊖)
6.8% (9.2%)
下落 ▶ (⊖) (⊖) (⊖) (⊖) (⊖)
▲1.8% (▲2.7%)
流動性 ▶
—単元
財務健全度 ▶ (⊕) (⊕) (⊕) (⊕) (⊕)
0.86 (2.83)
注)カッコ内は業種平均
コメント

【ご注意】このレポートに掲載された情報は投資一般に関する情報提供を目的としたものであり、投資に関するアドバイスあるいは証券売買の勧誘ではありません。投資判断はお客様ご自身の責任でなさるようお願いいたします。当社はこのレポートの情報について、その正確性や完全性を保証するものではありません。利用者による情報の使用、情報に基づく行為、情報提供中のエラー・欠損または通信の中断・遅延、およびそれらにより生ずる一切の障害について、当社は何らの責任を負わないものとします。このレポートを許可なしに引用、複製、および再配布することを禁じます。Copyright(C)2015東洋経済新報社 不許複製

## ■主要項目の説明

【理論株価】財務・業績数値から東洋経済が独自に算出した「理論的な株価水準」です。( ) 内の上昇余地は、レポートに記載した株価に対して理論株価がどれだけ上回っているかを示し、株価の割安・割高の度合いを表します。理論株価はあくまで投資判断の参考としての利用を目的としており、東洋経済はその正確性、完全性、実現性を保証するものではありません。計算方法は以下の順序です。

1. まず株主資本コストを求めます。(β値は一定の修正を行っています)

$$\text{株主資本コスト} = \text{長期国債利回り} + \beta \text{値} \times \text{株式リスクプレミアム}$$

2. 次に、将来の1株当り超過利益の現在価値を計算します。(EPSは1株当り利益、BPSは1株当り株主資本)

将来の1株当り超過利益の現在価値 =

$$\frac{\text{今期予想EPS} - \text{最近期BPS} \times \text{株主資本コスト}}{(1 + \text{株主資本コスト})} + \frac{\text{来期予想EPS} - \text{今期予想BPS} \times \text{株主資本コスト}}{(1 + \text{株主資本コスト})^2} + \text{以下n期まで}$$

3. 上記の2の結果を基に下記の計算で完成です。(BPSは最新本決算期末時点の数値)

$$\text{理論株価} = \text{最近期BPS} + \text{将来の1株超過利益の現在価値}$$

【株価感応度】「TOPIX」、「NYダウ」は過去60カ月における東証TOPIX、NYダウ平均株価指数に対する株価のβ値です。「円高ドル安」、「原油価格」、「長期金利」はそれぞれ過去60カ月における「円ドル為替レート」、「WTI(NY原油先物I価格)」、「日本国債指標銘柄利回り」に対しての株価のβ値です。各β値についてのコメントは、以下のような定義となっています。

1.5以上⇒“高い” ⇒“普通”	1.1以上 1.5未満⇒“やや高い”	0.8以上 1.1未満
0以上 0.4未満⇒“低い”	0.4以上 0.8未満⇒“やや低い”	0未満⇒“逆転”

【四季報 業績評価】以下の4指標での総合評価を、☺の数によって5段階のランク付けをしています。☺5つが最高評価、☺3つが中立、☺1つが最低評価を表します。

【四季報強気度・弱気度】経常利益について最新の東洋経済予想と会社発表予想を比較し、5段階で表示

会社予想に比べて黒字拡大の上位50%を☺5つ、下位50%および黒字転換、赤字縮小を☺4つ、会社予想と同じを☺3つ、黒字縮小の上位50%を☺2つ、下位50%および赤字化、赤字拡大を☺1つとしています。

【今期経常増益率】今期予想経常利益の対前期比増減率を5段階で表示

今期予想経常利益に関して評価の高い順に、増益、黒字横ばい、黒字転換、減益、赤字縮小、赤字転落、赤字拡大の7グループに分け、さらに各グループ内での順位に応じてランク付けをして、上場全銘柄が5等分されるように☺の数を決めています。

【来期経常増益率】来期予想経常利益の対今期予想比増減率を5段階で表示

来期予想経常利益に関して、今期増益率と同様にランク付けをしています。

【四季報増減額】『会社四季報』最新号の今期経常利益予想に対し、最新の東洋経済予想の増減額修正の度合いを5段階で表示

(『会社四季報』最新号とは、最新号の発売後1カ月間は1つ前の号、発売後1カ月以降は最新号そのもの)

前号に比べて黒字拡大の上位50%を☺5つ、下位50%および黒字転換、赤字縮小を☺4つ、前号と同じを☺3つ、黒字縮小の上位50%を☺2つ、下位50%および赤字化、赤字拡大を☺1つとしています。

【リスク情報】各銘柄の投資リスクの大きさについて、以下の4指標での【総合評価】を☺の数によって5段階評価を行っています。☺の数が多いほど投資リスクは大きく、☺の数が少ないほどリスクは小さいことを示しています。

【値動き】過去60カ月での株価の月間騰落率の標準偏差。この値が大きく、株価の値動きが激しいほど☺の数は多くなります(4段階評価)。上場後60カ月未満の会社でも、上場して12カ月以上経過した会社はその期間での標準偏差を掲載し、12カ月に満たない会社は「-」で表示しました。

【下落】過去60カ月での株価の月間騰落率がマイナスだった月の株価下落率のみを抽出し、その合計を算出期間月数の60で割った値。この値(マイナス)が大きく、下落幅が激しいほど☺の数は多くなります(4段階評価)。上場後60カ月未満の会社は、「値動き」と同様に上場後12カ月以上はその期間での下落幅を掲載、12カ月未満の会社については「-」を表示しました。

【流動性】発行済株式数のうち、市場での売買を目的としているとみなされる流動株式数を東洋経済が算出し、それを売買単位で割って流動株を単元単位に換算した値です。この単元数が小さいほど☺の数は多くなります(4段階評価)。

【財務健全度】財務数値をもとに判別する総合指標「Z値」で、企業の財務健全度を表しています。Z値は資金繰りや収益性、財務余力などを総合的に分析した指標であり、7つの分析値(株主資本利益率、売上高営業利益率、現金預金回転期間、総資本回転率、保証債務対株主資本、剰余金投下資本構成比率、デットキャパシティレシオ)をもとに判断しています。このZ値が大きいくほど財務健全度は高く、5段階評価で高いほうから、☺☺☺(健全)、☺☺(安全)、☺(平常)、☺☺(注意)、☺☺☺(警戒)と表示しています。